

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(4年計画の2年目)

1. 研究課題

『玉燭宝典』研究

A Study on Yuzhu Baodian

2. 研究代表者氏名

吉勝 隆一

KOGACHI, Ryuichi

3. 研究期間

2023年4月-2027年3月(2年目)

4. 研究目的

隋の学者、杜台卿(とだいけい)の著作『玉燭宝典(ぎょくしょくほうてん)』は、中国の年中行事を総合的にまとめた著作であり、中国思想史・文化史研究に資する非常に豊富な引用文と情報を具備している。また、日本の年中行事にも、大きな影響を与える著作としても知られる。同書の重要性・貴重性はよく認識されているものの、いまだ学術的な利用に耐える整理がなされていない現状にある。本研究は、日本の南北朝時代に書写された古写本(前田育徳会尊經閣文庫蔵)の『玉燭宝典』を適切に整理し、本文研究に基づき詳しい注釈を施す作業を通じ、この貴重な資料の広く利用可能なものとして提供することを目的とする。

また同書は、単なる年中行事書であるのみならず、隋代までに存在した既存資料を組み合わせて作られた編纂物であり、中国で「類書」と呼ばれるものと共に書物史的背景を有する。『玉燭宝典』は、どのような編纂思想に基づいて編纂されたのか、これについてもあわせて明らかにしたい。

Yuzhu Baodian 玉燭宝典, a work by the Sui Dynasty scholar Du Taiqing 杜台卿, is a comprehensive compilation of Chinese annual events, and contains a great wealth of quotations and information that contributes to the study of the history of Chinese thought and culture. It is also known as a work that has had a great influence on Japanese annual events. Although the importance and preciousness of this book are well recognized, it has yet to be organized in a way that would allow it to be used academically. The purpose of this study is to provide a widely accessible version of this valuable material by properly arranging and annotating a manuscript of Yuzhu Baodian copied in the 14th century Japan (owned by the Maeda Ikutokukai, Sonkēkaku Bunko).

5. 本年度の研究実施状況

『玉燭宝典』古写本（室町時代初期）の整理につき、文字学・写本学・電子化の観点など、さまざまな角度から検討を加えた。

前年度整理を加えた卷一について、その成果を電子的にどのようななかたちで表現するのがよいか、議論を加え、国際的なマークアップの規準である TEI の形式で記述するための議論をおこなった。古写本が書写された時代の用字習慣を踏まえ、さらにはそれ以前の中国中世の書写習慣の解明を目指しつつ、その人文情報学的な表現を実現するという問題意識のもとになされたものである。

その中で、以下のような整理方針を立てることができた。まず「翻刻」という作業をおこなう。これは文字学的な知識を生かしつつ、なるべく古写本に忠実なかたちで文字コードを当てる作業である。次に、「校訂本文」を作成する。これは、読解可能なかたちで整理を加えるものである。これらの両方に、それぞれ異なる内容の注釈を加え、最先端の成果とすることを目指すという方針である。

6. 本年度の研究実施内容

- 2024.5.28 『玉燭宝典』所引文献の検討方針について 発表者 古勝隆一
2024.6.25 『玉燭宝典』電子化の指針 発表者 白須裕之
2024.7.23 『玉燭宝典』卷一を読む⑥ 発表者 王孫涵之 弘前大学 人文社会科学部
2024.10.22 朱新林注『玉燭宝典校理』について 発表者 古勝隆一
2024.11.19 『玉燭宝典』の翻刻と校訂の方針に関する再検討 発表者 仲村康太郎 大学院文学研究科
2024.12.17 『玉燭宝典』のテキストについて 『玉燭宝典』卷九について 発表者 富嘉吟 お茶の水女子大学 基幹研究院 『玉燭宝典』卷一を読む⑦ 発表者 王孫涵之 弘前大学 人文社会科学部
2025.1.21 前田本『玉燭宝典』卷一の翻刻と校訂本文の試作 発表者 仲村康太郎 大学院文学研究科
2025.2.18 前田本『玉燭宝典』卷二以降の翻刻と校訂について 発表者 仲村康太郎 大学院文学研究科

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

古勝隆一、永田知之、倉本尚徳、藤井律之、白須裕之、楊維公、李媛

学内

道坂昭廣(大学院人間・環境学研究科)、福谷彬(大学院人間・環境学研究科)、魏星(大学院人間・環境学研究科)、成田健太郎(大学院文学研究科)、仲村康太郎(大学院文学研究科)、田尻健太(大学院文学研究科)、王歎(大学院文学研究科)

学外

内山直樹(千葉大学大学院人文科学研究院)、竹元規人(福岡教育大学教育学部)、新田元規(徳島大学総合科学部)、白石將人(三重大学人文学部)、陳錦清(三重大学人文学部)、王孫涵之(弘前大学人文社会科学部)、富嘉吟(お茶の水女子大学基幹研究院)、平澤歩(東京大学大学院人文社会系研究科)、海藤水樹(東京大学大学院人文社会系研究科)、陳佑真(都留文科大学文学部)、重田みち(京都芸術大学大学院芸術教育科(通信課程))、渡邊大(文教大学文学部)、山口智弘(駒澤大学文学部)、李弘皓(長春師範大学歴史文化学院)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数				延べ人数					
						海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)
		総計				総計				若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	7	2	1	1	0	52	14	8	8	0
京大内 (人文研を除く) (内女性)	2	7	2	5	4	4	38	9	24	22	22
国立大学 (内女性)	7	9	3	4	2	1	44	16	24	13	8
公立大学 (内女性)	1	1	0	1	1	0	6	0	6	6	0
私立大学 (内女性)	3	3	0	0	0	0	10	0	0	0	0
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公の研究機関 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関 (内女性)	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0
その他 ※ (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	15	28	8	11	8	5	151	40	62	49	30
※「その他」の区分受 入がある場合 具体的な所属等名称を 記載：例）高校教員 無所属の場合は機関数0とカ ウントし、この欄の記載不要		(5)	(4)	(3)	(1)	(1)	(32)	(24)	(18)	(7)	(7)

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数		うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	2		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	3		1	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適當ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	暴力のありか 中 国古代軍事史の多 角的検討	1	2024.4	魏晋南北朝時代の仏教と 軍事：僧伝の検討	古勝隆一
2	唐研究 29	1	2024.5	新見晚唐類書『雙金』攷	富嘉吟
3	東洋学へのコンピ ュータ利用 第 38 回研究セミナー	1	2024.7	TEI による『篆隸万象名 義』と原本『玉篇』の構造化記述における問題点	李媛
4	〈中国の詩学〉を 超えて	1	2024.10	作者の自覚から筆勢の自 覚へ	成田健太郎
5	書学書道史研究 34	1	2024.10	雜体書の歴史における 『篆隸文体』の継承と断 絶	仲村康太郎
6	日本中国学会報 76	1	2024.12	夢英「十八体篆書碑」と 張懷瓘『書断』	仲村康太郎

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書
なし

12. 博士学位を取得した学生の数
2 (学内 2・学外 0)

13. 次年度の研究実施計画

2025 年度の研究班開催は、4 月から 2 月までに、9 回を実施する予定（いずれも第 3 火曜日の午後）。この 9 回の研究会を通じ、巻二を読み終える計画である。

- 4 月 15 日 「二月仲春第二 禮月令曰仲春之月」
- 5 月 20 日 「蔡維仲春章句曰」
- 6 月 17 日 「日夜分日者晝也」
- 7 月 15 日 「詩邵南曰厭浥行露」
- 10 月 21 日 「禮夏小正曰二月初」
- 11 月 18 日 「易通卦驗曰驚蟄雷電」
- 12 月 16 日 「崔寔四民月令曰二月祠太社之日」
- 1 月 20 日 「附說曰孔子內備經云」
- 2 月 17 日 「去冬至一百五日謂爲寒食之節」

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

次年度については、『玉燭宝典』巻二の整理を実施し、そのデータを作成し、TEI に準拠した形式とする。

それと並行して、すでに読み終えている巻一のデータについても、引き続いて同じ形式として表現することとする。

本研究計画の目的は、『玉燭宝典』全体を電子化し、その本文に対してこれまでにない詳しい注釈を加え、さまざまなかたちでの利用を可能とするよう整理することである。この目的を達成すべく、引き続き研究会を開催する。